

球磨郡錦町政座談会での簡易模型を用いた流水型ダムの説明について

○令和4年10月17日(月)から19日(水)に、町長が住民の方々へ施策説明等を行う「錦町政座談会」が3地区で開催(西:41人、木上:37人、一武:43人)された。併せて、参加頂いた住民の方々に対し、川辺川ダム砂防事務所からは、若手職員(係員)が簡易模型を用いて流水型ダムの役割や仕組みについて説明を行った。

流水型ダムの簡易模型を用いた実演の概要

- 着色した水を実際に流し、【流水型ダムが無い場合】と【流水型ダムがある場合】における、①平常時の河川水の流れ、②洪水時の河川水の流れ、を簡易模型を用いて実演*。
- 流水型ダムの詳細な構造は決まっていないことを説明したうえで、簡易模型には、ゲート可動式の放流設備(河床部放流設備及び常用洪水吐)、緊急放流(異常洪水時防災操作)時に使用する非常用洪水吐を設置。

※平常時と洪水時の降雨はポリタンクのレバー開度で調整し擬似的に再現

説明のポイント

①平常時の河川水の流れについて

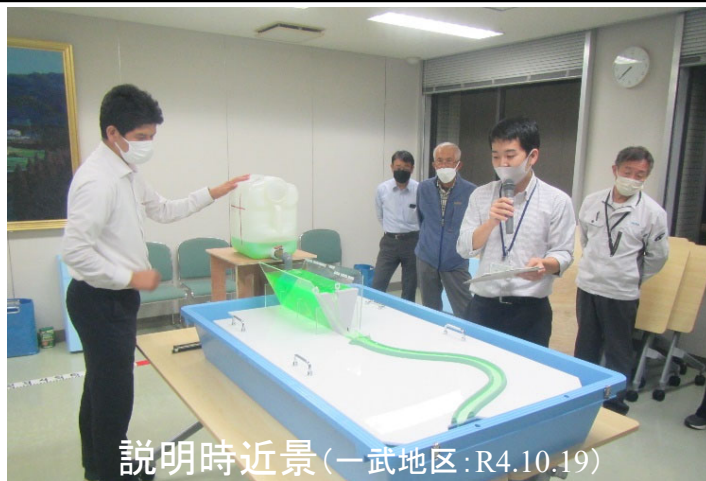
➢川の底とほぼ同じ高さの放流管から水が流れ続けることで、通常時は水を貯めず普段の川と変わらないことを実演し説明。

②洪水時の河川水の流れについて

- 洪水調節：ダムへの流入量が大きくなったタイミングで放流設備を操作し、洪水調節(ダムへの流入量より少ない量を川に流す)を行うことで、下流河道からの越流を防ぎ、ダムの効果を擬似的に再現するとともに、洪水のピークをずらすことで避難する時間が確保できることも説明。
- 緊急放流：ダムの貯水位がサーチャージ水位になると、貯まった河川水が非常用洪水吐から放流されることを擬似的に再現するとともに、緊急放流では、ダムから放流される量はダムへの流入量と同じ量であり、ダムへの流入量よりも多く下流に流すことは無いことを説明。
- 洪水調節後から平常時になるまで：ダムへの流入量が減少し、
 - ・下流の水位が下がり始め、安全が確保できる状態で放流すること。
 - ・ダムの貯水位がさらに下がったら、普段の河川に近い状況に戻ることを説明。



簡易模型全景(一武地区:R4.10.19)



説明時近景(一武地区:R4.10.19)



説明時遠景(木上地区:R4.10.18)